

5月第2日曜日は、母の日。
6月第3日曜日は、父の日。
7月の第4日曜日は
親子の日



<2018年7月22日「親子の日」スーパーフォトセッション終了後の記念写真>

◆青柳伶旺◆石原繁◆井上佳子◆猪股敏郎◆岩上円香◆上田壮一◆江口カエ
◆大崎結◆大野貴幸◆ブルース オズボーン◆実佳 オズボーン◆由良 オズボーン
◆梶原 美紀◆金子 涼子◆岸 俊一◆草場 真由香◆河野 任慶◆櫻井 武司
◆佐藤菜津子◆沢田節子◆沢田藍子◆沢田桃子◆志喜屋秀壮◆志喜屋理恵
◆関智◆関宴子◆関ひばり◆高塚知世◆高須尚史◆田中勇樹◆田原佳代子
◆手塚俊兵◆手塚百音◆中村克己◆樋貝美紀◆樋貝吉郎◆福原弥生◆福原義久
◆古河雄太◆松井博司◆松浦有◆松崎稔◆三崎千香◆宮庄宏明◆元木行哉
◆柚木公奈◆横山泰介◆吉村 優◆渡辺 熱 (五十音順/敬称略)

— ご協力いただきましたみなさま、一年間本当にありがとうございました —

**2019年の「親子の日」は
7月28日です!**



親子の日普及推進委員会
<http://www.oyako.org>

7月の第4日曜日は **親子の日** 2018年 活動報告書



親子の日

「あなただけを見つめる」という花言葉の「ヒマワリ」を
「親子の日」のシンボルフラワーに決めました!!



年に1度、親と子がともに向かい合う日があったっていい。
その日を通じて、すべての親子の絆が強められたら素晴らしい。
そんな願いを込めて、7月第4日曜日を「親子の日」にしたいと私たちは考えました。
2018年は、7月22日が「親子の日」でした。
みなさまからのご協力をいただき、
親と子の距離がぐっと縮まる数々のイベントを開催し、
多くの共感をいただくことができました。

~present to the future~

「親子の日」は、あなたと育てる「未来への贈物」です!

~present to the future~

5月第2日曜日は、母の日。6月第3日曜日は、父の日。

7月第4日曜日は、**親子の日**。

『生まれて初めて出会う「親」と「子」の関係を見つめることは、家族、地域、社会、そして自然をも含むすべての「環境」に敬意をはらい、平和を願うこと』という思いを込めて、2003年に「親子の日」のオリジネーター、米国人写真家ブルース・オズボーンは、7月の第4日曜日を「親子の日」にと、提唱しました。

その理念に共感した友人たちによって「世界中の誰もが生まれてきたことを喜べる世界の実現」への願いを込めて、親子の日普及推進委員会が発足しました。

2018年も、「親子の日」の定着を願って多くのイベントを実施。非常に成果のあった一年でした。

ブルース・オズボーンの理念と私達の願いを、少しでも多くの人たちに届けたいという思いが、年々具体化。念願だった海外での展覧会や写真撮影会も実現。また高松宮賞や秩父宮賞と並ぶ三大宮賞の一つ、東久邇宮文化褒賞を授与されるなど各方面の高い評価もいただくことができました。

長年希望していた写真集「OYAKO」も、ネットでの発売がスタート。来年に向けてますます充実した活動ができるのではないかと思います。

“present to the future”という「親子の日」のスローガンが表すように、「親子の日」に込めた思いは、きっと未来への宝物になると信じて、今後も「親子の日」の普及活動を続けつつ社会と向き合っていきたいと思っています。

親子の日普及推進委員会
<http://www.oyako.org>



◆ブルース・オズボーン プロフィール <http://www.bruceosborn.com/>

Art Center College of Design で、コマーシャル写真を専攻。1980年の写真展「LA Fantasies」をきっかけに、日本での活動を本格的に開始。ボストン子供の博物館の企画展「TEEN TOKYO」では、東京のティーンエージャーを撮影して展示。ボストンの MCET 制作、インターネットを使つての双方向教育番組では8回にわたつてディレクターを務め、アメリカの高校生にむけて「生の日本情報」を伝えた。

1982年から始めた「親子」写真の撮影は今年で35年目になり、撮影した親子の数は7000組を数える。2003年より7月の第4日曜日を「親子の日」にと提唱したオリジネーターで、記念日協会にも登録。2014年に同協会から「記念日文化功労賞」を授与。「親子」をテーマにした写真展は、外国人特派員クラブ、横浜ランドマークタワー、山梨県立美術館、金沢21世紀美術館、愛・地球博園内愛知県児童総合センターなど、各地で数多く開催。2016年に在シンガポール日本国大使館JCCにおいて親子写真の展示会が実施される。2011年の6月から、「親子の日」公式プロジェクトとして被災地訪問を実施。また、「TIE ☆ 会いたい」では、被災地でワークショップを実施。写真を中心に、子どもたちのネットワークづくりを構築。親子をテーマに撮影した作品とソーシャルアクションに大きな期待が寄せられている。

<写真集・著書>

「親子」(デルポ出版) / 「Oyako」(INKS INC. BOOKS) / 「KAZOKU」(角川書店) / 「ごめんなさい」(日本標準)

「反パンビ症候群」(ヒヨコ舎) / 「親馬鹿力」(岩崎書店) / 「この国の環境」(アサヒビール・清水弘文堂書房)

「OYAKO」(Sora Books)



「親子の日」の普及推進にあたって、2018年度は右記の企業と団体のご協力をいただきました

●特別協賛

OLYMPUS

オリンパス株式会社

oticon
PEOPLE FIRST
オーティコン補聴器

オーティコン補聴器

DAC
group

DACグループ

PREMIUM OUTLETS
MITSUBISHI ESTATE・RIMON

三菱地所・サイモン株式会社

●特別協力



毎日新聞



毎日新聞社

TSUTAYA

株式会社 TSUTAYA

●協力

フェイスブックジャパン／エプソン販売 株式会社

株式会社 円谷プロダクション／協同組合日本写真館協会／株式会社浪漫堂

お母さん業界新聞／株式会社 琉球補聴器／AXN ジャパン

株式会社日比谷花壇／株式会社 ジュピターテレコム

株式会社 池光エンタープライズ／株式会社 オゾン

●後援

J-WAVE／よしもと PAPAPARK

●Special thanks

滋賀県米原市／石川県珠洲市／山口県下松市／愛知県児童総合センター

SPACEPORT Inc.／東京YMCA"liby"／BBスタジオ広尾／HEARTFUL PHOTO

下松商業開発株式会社／一般社団法人日本記念日協会／鬼頭印刷株式会社

株式会社 山田製油／岩下食品株式会社／DEAD STOCK UNION／surfers

Have Some Fun／NPO法人スーパーダディ協会 (SDA)

CREATORS' LOUNGE／CHAN-MIKA／まごチャンネル／アンブア葉山



「親子の日」の活動では、グリーン電力 (1,000KW) を利用しています

今年は、高崎市場青果保冷库棟太陽光発電施設のグリーン電力を使用しました





「親子の日」オフィシャルサイト www.oyako.org

日・英バイリンガルの「親子の日」情報発信プラットフォームです。「スーパーフォトセッション」で撮影した写真の掲載、「写真コンテスト」と「エッセイコンテスト」の公募と入賞者発表、「親子大賞」の投票と発表など、公式イベント情報とともに、「親子の日」に関連する多くの情報を掲載しています。



◆ オフィシャルサイト

ニュース、エッセイ、映画、ギャラリーほか、見ごたえ読みごたえのある内容を常時更新するコミュニケーションセンター！



▲「親子大使 応援メッセージ」のコラムには、2010年から始まった「親子大使」制度で大使として任命させていただいたみなさまからの温かい応援メッセージが掲載されています。

◆ SNSの活用

Facebook・LINE・Twitter・Instagramなどを活用して、多くの人たちとのコミュニケーションをはかりました。2018年も、Google や Yahoo! JAPAN などでも「親子」で検索すると「親子の日」のオフィシャルサイトが常にトップにあり、「親子の日」に寄せられる関心の高さを実感しました。



「親子の日」 検索



「親子の日」2018 年度の製作物



さまざまなイベントで、「親子の日」製作物を活用してのプロモーションを心がけました。



▼ オリジナルポスター《B2 サイズ…500 枚》



▼ ピンバッジ《5,000 個》



オリジナルエコバッグ
《600 枚》

▶ Tシャツ《200 枚》

「親子の日」ロゴマーク入りの
Tシャツを限定製作し販売



◀ リーフレット 《三つ折り観音開き 10,000 部》



▼「親子の日」フライヤー 《A4 サイズ…30,000 枚》



▼「親子の日」特製カレンダー



▼ ステッカー《1,500 枚》



写真集「OYAKO」(英語版)



アマゾンで発売中！ 発売元：Sora Books 定価 1,580 円 (税込)



英語版の親子写真集「OYAKO」が発売になりました。36年間にわたって撮った7000組以上の親子写真の中から選び抜いた88枚の写真で構成。表紙は35年前に撮影した旅芸人の松本雄次郎さんと、当時学生だった松本梨香さんの親子。松本梨香さんは今、アニメのポケットモンスターで主人公のサトシくん役の声優やテーマソングを歌うなど大活躍をしています。

☆写真集「OYAKO」の申し込みはこちらから→





ブルース・オズボーンが2003年の「親子の日」初回以来続けている撮影イベントです。今年で16回目！各協賛企業を通じての応募とともに、新聞、雑誌、ラジオ、インターネット等のメディアからも多数の応募者がありました。その中から100組の親子を招待し、一日がかりで撮影。後日それぞれの親子に1枚ずつ撮影した写真を送付しました。その後、オリンパスギャラリーで展示会を行ない、公式サイトで紹介しています。このイベントは遠方からの参加者も多く、夏のスペシャルな思い出作りとして喜んでいただいています。



＊待合室でのひと時



＊「親子の日」のほり旗が撮影会場の目印



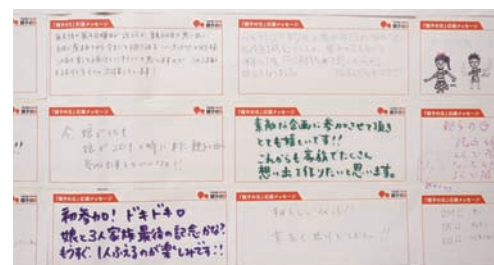
＊会場で迎えてくれる受付スタッフ



＊「親子の日」スーパーフォトセッション＊待合室。テーブルに飾ったヒマワリが、緊張を和らげてくれます



＊「親子」の話題で盛り上がります



＊メッセージボードに貼られた応援メッセージの数々



＊会場の展示風景



＊大きなスタジオでノビノビと撮影が進行します



＊バックでサポートしてくれるスタッフも真剣



＊初めての経験にワクワク



＊パパが照れる久しぶりのツーショット



＊撮影の順番を待つ間にポーズの研究



＊撮影中は応援スタッフが盛り上げてくれます



＊撮影が終わってホッ！どんなふうに写ったかな？

撮影／宮庄宏明
(オリンパス株式会社)



スーパーフォトセッション当日に撮影した写真の一部と、撮影会に参加するために送っていただいた応募の動機からの抜粋です。ステキな時間を一緒に過ごして下さったみなさまへの感謝を込めて紹介します。

		＊中学生になった娘が、今、反抗期の真っ最中。本当に難しい年頃で四苦八苦の日々ですが、家族の絆を深める記念になればと思い応募させていただきました。どんなときでも我が子の成長を見守っていきたいという親の覚悟を写真に記録してください。
＊3年前の「親子の日」にオズボーン氏に撮影していただいた写真は、私たち親子にとって何ものにも代え難い宝物になりました。機会があればいつかまた応募したいと思っていましたが、急に父親の海外単身赴任が決定。これからしばらく父親不在の日々が始まってしまいます。そのために、数年先に考えていた再応募をすることにいたしました。もしも希望が叶ったら、自分たち親子を身近な存在として常に再認識できるように、一番目につくところに飾って大事にしたいと思います。	＊三男を出産後に体調を悪くして入院。母子家庭の我が家の上の2人の子どもたちにはほんとうに苦労をかけてしまいました。やっと退院しましたが、長男と次男の存在があってこそ成り立っている我家を実感し、子どもたちにはただただ感謝しかありません。新聞で「スーパーフォトセッション」の記事を見た母からのすすめで、難関だと思いつつ撮影会に応募してみました。オズボーンさんに親子全員一緒に写真を撮ってもらえたら、私からの感謝の気持ちを息子たちに伝えられると思います。ぜひ選んでください。	
		＊娘の成長は親の私たちでも驚くほどの早さ。最近では誕生したときの様子などにも興味を持っているくらい聞いてきます。言葉での説明もさることながら、私たちがいて娘がいるという姿を形にする〈スーパーフォトセッション〉という素晴らしい企画に参加して写真に残したいと思い応募しました。HPで見るとの親子も生き生きとした表情で映っていて羨ましいです。私たちもオズボーンさんの魔法にかかってみたいと思います。
＊次男が生まれ家族が増えたことを喜んでたのもつかの間、長男の赤ちゃん返りが始まってしまいました。長男の気持ちもだいじにしたいと思いながらも叱りつけてしまったりがして、親子共に大変なことも多い毎日。こんな時だからこそ我家の今の姿を記録して心の支えにできたらと思い応募しました。	＊娘がまだ幼い時に離婚。娘を引き取り父子家庭として育ててきました。思春期に娘は家出。いろいろなことがありましたが、自分の父が亡くなった後にお墓参りに誘った事がきっかけとなって、たまに会ってショッピングをしたり食事をするようになりました。そんな私たちの今を、ブルース・オズボーンさんにぜひ撮って欲しいと思い、応募いたしました。	＊結婚してすぐに、夫の転勤で生まれ故郷を離れて引っ越すことになってしまいました。頼る人が誰もいなく心細い頃に子どもを授かりましたが、夫婦助け合いながら育児をしています。子どもが成長したら、きっと親子の関係も変化していくと思いますので、10年間の思い出となるような今の私たちの幸せな姿を記録していただきたいと思います。

	＊海外出張が多く、子どもとも親とも、過ごす時間が少ないため、ぜひ撮影会に参加して親子3世代で過ごす時間を記録して欲しいと思います。撮影が終わったら、みんなが大好きなウナギさんに行き食事をする予定です。選んで下さい。	
＊Instagramで「親子の日」とスーパーフォトセッションのことを知りました。なんて素敵なイベントだろうと、興奮したことを覚えています。写真におさめられた親子たちを何度も見返し、とても幸せな気持ちになりました。子どもたちも大きくなり、学校や習い事に忙しく、また、友達との時間も多くなり、だんだんと親子別々の世界が広がってくるようになりました。少しさみしさを感じつつ、成長をうれしく思っている今、ぜひともそんな姿を撮っていただきたいです。		＊癌で2度の手術。そして2回流産。産まれる時は3日間もかかり、しかも、産後1ヶ月でぎっくり腰、4日後に盲腸で入院。たくさんの方の奇跡が重なって子どもを授かり、今に至っています。やっと落ち着いて来た今年は「親子の日」の撮影会に参加して一緒に生きている喜びを形にしたいです。わが子が順調に成長をしていることが最高の喜びです。幸せな親子の写真を撮ってください。
	＊母は83歳！現在はケアハウスで生活しております。私は62歳、会社の検診で癌が見つかり近く手術を受けることになりました。「家族仲良く暮らさない」と言って亡くなった父の願いをどれだけ守って過ごしてきたのだろう？と、自問自答する日々です。スーパーフォトセッションに参加することが許されたら、家族揃ってお出かけして、父の願いだった「家族仲良く」楽しい時間を過ごしたいと思い申し込みました。	＊ブルース・オズボーンさんの視点から見える「私たち家族の今の姿」はどんな姿なのだろうか？自分たち親子を再認識する意味でもぜひ撮影会に参加したいです。
＊ブルース・オズボーンさんのドキュメンタリーをテレビで拝見しました。その際にスーパーフォトセッションの様子を見て、なんて素敵なイベントなんだろうと感激しました。既に父は他界して母親は一人暮らしをしています。毎日楽しく自由に過ごしている母ですが、仙台で震災にあった姉夫婦のことなどもあって苦労してきました。この機会に、母親への感謝の気持ちを込めて、撮影会に参加できないかと思い応募しました。母への最高のプレゼントになると思います。	＊以前、母と一緒に撮影会に参加させていただきました。写真は母へのプレゼントとして母の住む家に大切に飾ってあります。いつか私も母親になったら…と思っていましたが、やっと第一子が生まれましたので、また記念の撮影をしていただけたらまたステキな思い出ができると思っ応募しました。初めての「母の日」「父の日」を終えて、迎える「親子の日」。ぜひ撮影会に参加させて下さい。	
＊昨年生まれた娘が、今年の「親子の日」でちょうど1歳になります。人生に一度しかない1歳の誕生日の写真を、ぜひオズボーンさんに撮っていただきたいので応募しました。		＊母のおかげで今の自分があるはずなのに、会っても母に優しい言葉をかけられない自分。母86歳と娘56歳の親子です。毎日お互いのことを心配しつつ喧嘩も度々してしまい、介護しているのか面倒をみてもらっているのか、楽しくやっていますが微妙な毎日です。そんな姿を撮っていただければと思い応募しました。



親子の日 2018 写真コンテスト／公式イベント

写真コンテストは、今回で15回目をむかえました。

2018年も、オリンパスが運営する写真投稿コミュニティサイト「FotoPus（フォトパス）」をプラットフォームとして運営。応募総数は1100点。個性の光る作品が多く集まり、審査員も楽しみながらの審査会でした。

毎日新聞社において厳選な審査を行なった結果、以下の20点の受賞作品が選ばれました。



◆ 親子の日写真コンテスト＜グランプリ＞



「父子愛」
頑張るマン

◆ オリンパス賞



「ずーっと一緒だよ。」
gamma



「そりすべり」
ryu0615

▼ 「FotoPus（フォトパス）」の 公募ウェブサイト



▲ FotoPus（フォトパス）は、
オリンパスが運営する写真投稿
コミュニティサイトです。サイ
トの会員からもアクセスが多く、
今年もたくさんの作品がネットを
通じて届きました。



◆ オーティコンみみとも賞



「親父・歳をとったなあ」
tomi23



「力あわせれば」
ゆうこねこ



「届かな〜」
ユリ◎

◆ DAC NIKI Hills 賞



「親子でゴール」
鼻まがり

◆ エプソン賞



「ママとわたしの宝物」
ありみ

◆ 円谷プロ賞



「仕上げ磨きタイム」
mekk



「僕のパパとママは
ラブラブです。」
shoot ☆

◆ 毎日新聞社賞



「一緒にうたた寝」
ふっきい



「愛おしいあんよ」
ハッサ

◆ 「親子の日」賞



「初めてのボール遊び」
nyaoko0222



「背比べ」
ユト



「今年の願い」
syunn



「三人姉妹」
荒野のいさたん



「魚の目に水見えず、人の目に空見えず」
takayoforsyth



親子の日 2018 エッセイコンテスト／公式イベント

13回目のエッセイコンテストには812点もの作品が集まりました。学校単位で応募してくださるケースや海外に住む方からの応募も増え、読み応えのある作品にたくさん出会うことができました。背景が異なるさまざまな親子のストーリーは、そのまま社会を映す鏡。審査員の心にも深く響きました。受賞者は以下の17名に決定いたしました。

◆ 親子の日エッセイコンテスト＜グランプリ＞



大井賢一（東京都文京区）
「父になり、父の背中を思い出す」

◆ オーティコン賞

凌霄花（東京都西東京市）
「あの日、私たちは逃げた。
幸せになるために。」
白石良太（埼玉県朝霞市）
「父と母、そして莫迦な俺。」
東紗也華（京都府京都市）
「母のアルバム」

◆ 三菱地所・サイモン賞

関矢瑞季（東京都品川区）
「特別じゃなかった「特別」」
山本築（福岡県福岡市）
「母親の終活」
水沼遥（東京都板橋区）
「おとうのお見送り」

◆ 毎日新聞社賞

水谷彰宏（兵庫県姫路市）
「父と子」
中野麗（兵庫県洲本市）
「母の言葉」
岡村隆聖（神奈川県横浜市）
「母の魂胆」

◆ 円谷賞

森惇（千葉県松戸市）
「抗うチカラ」

◆ TSUTAYA 賞

上江洲聖（沖縄県那覇市）
「神さまの手紙」



第12回「親子大賞 2018」



今年で12回目となる「親子大賞 2018 年」に輝いたのは歌手の加藤登紀子とYae親子！

お二人には親子の日普及推進委員会から、証書と副賞を贈呈しました。

「親子大賞特別賞 2018」

「親子大賞特別賞 2018」を受賞したのは、写真集「OYAKO」の表紙を飾っていただいた松本雄次郎+松本梨香親子。松本梨香さんとは撮影以来30年ぶりの再会。大衆演劇の座長であった父親から受継いだ才能を生かして現在は数々の舞台上で活躍中。声優としてもポケットモンスターのサトシ役など多くの作品に出演。



PHOTO+ 第8回 EXPOSURE PHOTOGRAPHY AWARD



世界最高のコンテンポラリー写真コンテスト第8回 EXPOSURE PHOTOGRAPHY AWARD にブルース・オズボーンの親子写真が選ばれました。



オリンパス株式会社

「親子の日」の特別協賛第1号の企業としてサポートをいただいてから15年目となるオリンパス株式会社は、2018年も、公式ホームページで「親子の日」や写真コンテストの告知をしてくださるなど、「親子の日」の普及にご尽力をいただきました。「親子の日」当日に行われたスーパーフォトセッションには、社員がボランティアの一員として会場の運営に携わっていただきました。14回目を迎えた写真展「親子の日2018～親子の日に出会った親子～」は、オリンパスギャラリー 東京(9月14日～19日)で展示。同会場内のクリエイティブウォールには日本写真館協会員の撮影した親子写真も展示され(P16参照)、多くの来場者から温かいコメントをいただくことができました。

また、オリンパス株式会社が運営する写真投稿コミュニティサイト「FotoPus (フォトパス)」をプラットフォームとして運営した「親子の日写真コンテスト」には今年も多くの応募があり、特別賞の賞品として、ミラーレス一眼 OM-D E-M10 Mark III ボディー + M.ZUIKO DIGITAL ED 14-42mm F3.5-5.6 EZ をご提供いただきました。

会期中、写真家の石引まさのり氏とブルース・オズボーンが、展示会場と隣接したイベントスペースでトークショーを行い、親子の日普及推進委員会メンバーの関氏をMCに、写真館での「親子の日」の取組みと、今後の可能性について話しました。



▲沖縄県本那町で「もとぶ親子の日」撮影会を実施する写真家の石引まさのり氏とブルース・オズボーンがトークショー



▲オリンパスギャラリー東京で行われた写真展「親子の日2018～親子の日に出会った親子～」には、写真愛好家のみならず「親子」に興味を持つ人たちも数多く訪れました



▲オープニングレセプションには今年もたくさんの方が来場。和やかな集いとなりました

▼オリンパスの公式サイトに「親子の日」の活動内容を掲載

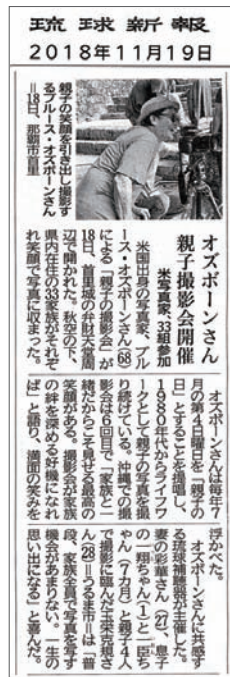


オーティコン補聴器

「親子の日」特別協賛企業として今年で8年目となるオーティコン補聴器は、協賛の事業内容を拡大。多くの場面で「親子の日」を応援していただきました。全国の販売代理店を通じて「親子の日」撮影イベントに5組の親子を招待する「みみとも親子ツアー」には多くの応募者があり、イベントが着実に定着してきた事を確信できます。

沖縄に本社を持つ株式会社琉球補聴器主催の親子の写真展と親子の撮影会は今年で6回目。この撮影会への応募者も過去で最多となりました。

写真展は10月23日～28日までの6日間、日本で一番最初にオープンしたショッピングモール、プラザハウスショッピングセンターで実施。また、11月18日に首里城公園内の弁財天堂で撮影会を実施。沖縄在住の親子33組が招待されました。イベントの様子は沖縄のTVや新聞のニュースを通じて沖縄の人たちに知っていただくことができました。(P21参照)



◆琉球新報、沖縄タイムス、など、地元の新聞やTVが写真展や撮影会の様子を取材。沖縄の人たちからもたくさんの応援をいただきました。



▲沖縄首里城公園内弁財天堂で撮影会



▲プラザハウスショッピングセンター「親子の写真展」



◆写真展のオープニングレセプションでは、鳩間島出身の沖縄民謡歌手、鳩間加奈子・俊介夫妻が会場で生演奏をして祝ってくださいました



DAC グループ

2013年からの特別協賛企業として「親子の日」普及推進のお手伝いをしてくださっているDACグループは、今年で第6回となる一般社団法人DAC未来サポート文化事業団主催の「親子の日 絆 (KIZUNA) コンクール」を実施。「親子の絆」をテーマとした作文、絵、写真を全国の中中学生と小学生を対象に公募。たくさんの素晴らしい作品が集まりました。ブルース・オズボーンを審査委員長とする審査会で最優秀賞6名と優秀賞30名を選出。最優秀賞の親子には副賞として親子の絆を深めるディズニーリゾートへの旅行が贈呈されました。



▲『親子の日 絆 (KIZUNA) コンクール』表彰式



▲初めての試みとして開催された「みらさぽワークショップ」は、親子参加型の写真ワークショップ。神奈川県葉山町で実施されました。ワークショップには県外からの参加者も加わり楽しい交流の場となりました





三菱地所・サイモン株式会社

御殿場をはじめ国内に9ヶ所のショッピングモールを展開する三菱地所・サイモン株式会社は、特別協賛企業として「親子の日」の普及に協力をいただいて6年目になります。今年は、仙台泉（宮城県仙台市）、あみ（茨城県稲敷郡阿見町）、酒々井（千葉県印旛郡酒々井町）、佐野（栃木県佐野市）と4つのプレミアム・アウトレットで撮影会を実施。年々応募者が増えて定着してきた本イベントにはお客様からの高い評価をいただいています。



▲屋外での撮影会は、天気に恵まれて順調に進行。参加者は撮影のあと、思い思いにショッピングモールを楽しんでいました



▲買い物に訪れた人やコミュニティ情報誌などを通じて撮影会のインフォメーションを告知します



▲6回目の撮影会後にスタッフと記念撮影を！

株式会社 TSUTAYA

株式会社 TSUTAYA は 2017 年に引き続き、「親が日ごろなかなか言葉にして伝えられない子どもへの思い」を一冊の本に込めて子どもに贈る新しい習慣の提案、「『親子の日』に本を贈ろうフェア」を企画。この企画に共感して参画を表明した各書店（旭屋書店 / リブロ / パルコブックセンター / よむよむ / 多田屋 / オリオン書房 / BOOKS えみたす）によって「本でつながる『親子の日』書店プロジェクト」が発足。全国約 900 店舗に於いて7月1日からフェアが開催されました。7月13日に渋谷ガーデンタワーで行われたこのイベントの記者発表には、作家の阿刀田高氏と新潮社出版部部長の中瀬ゆかり氏が登壇。TSUTAYA 取締役の杉浦敬太氏らとともに、本イベントへの想いや意義、そして今後の展望を語りました。



▲本のコンシェルジュとして活躍する書店員も加わり、現場の声にも耳を傾けてのトークイベントでした



▼「親子の日」に本を贈ろうフェア 2018 年用ポスター



▲本を購入した人にはブックカバーをプレゼント



▲書店で実施された「『親子の日』に本を贈ろうフェア」のディスプレイ



毎日新聞社

特別協力として応援してくださっている毎日新聞社が「親子インタビュー」の記事を定期的に紙面展開してくださるようになってから 12 年目になります。掲載紙面には、さまざまなフィールドで活躍する親子が登場し、「親子」について考えるだじなきっかけとなるストーリーをうかがうことができました。

また、TSUTAYA との共同企画「親子をつなぐこの一冊」は、毎月紙面に掲載される事が決定。企業間のコラボ企画を実施していく上の事例として期待されます。

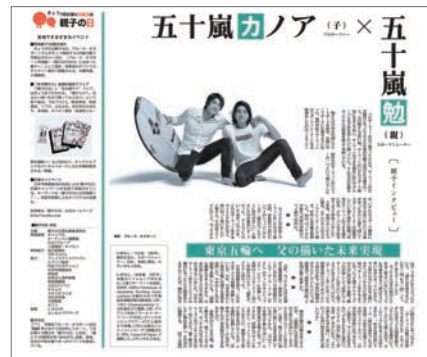
★毎日新聞「親子インタビュー」シリーズ



▲加藤登紀子×yae親子※5月13日（日）掲載



▲湯山昭×湯山玲子親子※6月20日（日）掲載



▲五十嵐勉×五十嵐力ノア親子※7月22日（日）掲載

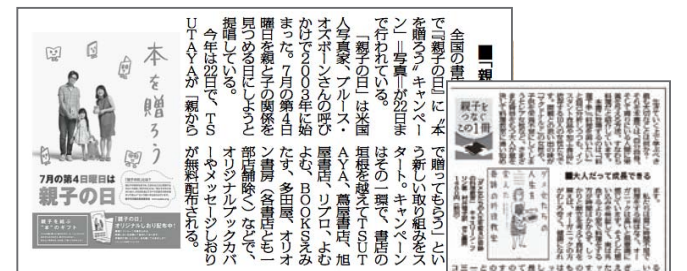


▲「人・模・様」「親子大賞特別賞 2018」に選出され、写真集「OYAKO」の表紙も飾った松本梨香さんの紹介



▲マイアイ 写真集「OYAKO」発売のお知らせ

「親子インタビュー」シリーズは、毎日 JP にも掲載されネットでも配信されています ▶



▲毎日新聞と TSUTAYA との共同コラボ企画「親子をつなぐこの一冊」





お母さん業界新聞

「お母さんはスゴイ！」というキャッチコピーのもと「お母さん大学」を運営する株式会社トランタンネットワーク新聞社が発行する「お母さん業界新聞」は、「スーパーフォトセッション」でブルース・オズボーンが撮影した親子に後日インタビュー。毎号の表紙として掲載。全国にいる10万人の読者に「親子の日」の活動を発信してくださっています。



▲「お母さん業界新聞」親子写真シリーズ



▲「お母さん大学」

フェイスブック ジャパン

ネットコミュニケーションサイトの大手Facebookの公式サイトに「親子の日」が紹介され、今年目標の一つでもあったネットワークの強化を計ることができました。



株式会社日比谷花壇

「親子の日」のシンボルフラワーとなった「ヒマワリ」が、株式会社日比谷花壇から各イベントに贈られ、イベント参加者に喜んでいただくことができました。次年度への展開も楽しみです。



株式会社円谷プロダクション

年間を通じて行われる多種多様なイベントを通じて、「親子の日」のプロモーションをしてくださっています。カレンダーには「親子の日」を掲載。会員に向けた「親子の日」認知向上にも大きな力を貸していただくことができました。



エプソン販売株式会社

エプソン販売株式会社からは、「親子の日」当日に行うスーパーフォトセッションの会場に必要な、モニターやプリンターなどの協力をいただきました。



株式会社池光エンタープライズ

展示会のオープニングレセプションに株式会社池光エンタープライズから飲料をご提供いただきました。残暑の中行われたレセプションではタイ産のビールとワインが大好評で、レセプションに出席いただいたみなさまに喜んでいただきました。



協同組合日本写真館協会の取り組み

2018年の「親子の日」に参加していただいた写真館は46店舗でした。会員数に比べてまだまだ参加者数は一部の写真館という現状ですが、2019年に更に多くの写真館に参加していただくために若い世代の写真館オーナーに声をかけるなどの試行錯誤を重ねることになりました。「親子の日」キャンペーン中に撮影した写真館の写真から17点を選び、オリンパスギャラリーで行われたブルース・オズボーンの写真展と同時に展示。展示作品として選ばれた写真の撮影者には「親子写真マイスター」としての称号が授与されました。



▲第35回 甲信越営業写真家連合会でトークショーと、写真撮影パフォーマンスを実施（撮影：小山克明）



▲協同組合日本写真館協会が隔月で発行する「ザ・写真館」には、毎号「親子の日」通信として「親子の日」の情報が掲載されています



▲オリンパスギャラリー東京「クリエイティブウォール」で写真館が撮った写真を展示

▼「親子の日」を実施した写真館のWEB情報



★第12回日本写真館賞で今年の「親子の日普及推進委員会賞」を受賞したのは、プラスフォトスタジオ（大阪）の長谷川久代様。長谷川様には審査委員のブルース・オズボーンから賞状と副賞を贈呈いたしました。



▲2018年も「写真館の親子の日」の告知広告が毎日新聞に掲載されました

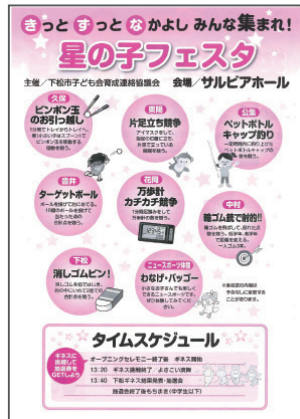




自治体との取り組み

◆ 山口県下松市

2013年に「親子の日」を公式に制定した山口県下松市では、今年も「親子の日」当日の7月22日に、市民交流拠点施設の「ほしらんどくだまつ」において、町をあげてのイベントを数々実施。下松市の事例をモデルにした自治体主導の「親子の日」イベントが全国に広がっていくことを委員会は大いに期待しています。



▲ 老若男女、どの世代も楽しめるように工夫された数々のプログラム！「くだまつ親子の日フェスタ 2018」のチラシ

◆ 東京都新宿区

新宿文化センターで公益財団法人新宿未来想像財団が主催する「ブルース・オズボーンと親子写真展」が行われました。会期中（9月12日～10月5日）には、歌手のイルカさんと家族を招いて「イルカほのぼのファミリーコンサート」や、谷口俊太郎親子、小室等親子が参加するイベントも実施され、区民のみなさまに楽しんでいただくことができました。



▲ 館内に入るとすぐ目の前に大きな親子の写真タペストリーが！ 迫力満点



▲ エントランスのロビーを埋め尽くした親子写真



▲ ライブ当日、ロビーに展示されたイルカ親子の写真

◆ 神奈川県葉山町

葉山芸術祭（4月27日～5月19日）に参加。「葉山♡ OYAKO」を、葉山町内にある森戸神社境内に展示しました。今まで芸術祭などを通じて発表してきたブルース・オズボーンの「親子」写真をはじめ、過去に発表してきたさまざまなタイプの作品への共感を得て、葉山のアーティストで結成された「葉山 ART WALK」のメンバーとしての参加が決定。今後は、地元からも「親子の日」のメッセージを発信するという課題にも取り組んでいくことになりました。



▲ 森戸神社境内の一角に展示した「葉山♡ OYAKO」



◀ フランク・ロイド・ライトの影響を大きく受けたという建築家遠藤新によって1928年に建てられた葉山の別荘「加地邸」で展示会



◆ 葉山芸術祭の展示は街中のあらゆる場所に展示されます

◆ 沖縄県沖縄市

日本で一番最初にオープンしたショッピングセンター、沖縄プラザハウスショッピングセンターで「親子の写真展」が実施されました（10月22日～28日）。同会場に「親子メッセージボード」を設置。来場者からたくさんのメッセージをいただきました。



◆ 神奈川県逗子市

神奈川県立逗子高校総合学習の一環として、「写真の可能性」をテーマにワークショップを実施（1月15日、22日）。東日本大震災後に「親子の日」が東北で実施した〈ITIE ☆ 会いたい〉の形式を生かして授業を進行。継続的なワークショップとして今後各地でも実施の予定です。



◆ 島根県出雲市

今年初めての「親子の日」イベント参加となった出雲市は、パルメイト出雲が企画した「おやこのじかん」をキャッチフレーズに、親子で時計作りをするイベントを実施。「親子の日」を市民のみならずと共有してくださいました。このような新しい取り組み方法は、今後「親子の日」を展開していく上で新たなイメージ作りとなったのではないのでしょうか。



▲ 親子で楽しい時間を過ごすきっかけづくりとして定着して欲しいです

ヤップ島の親子撮影

ヤップ島はミクロネシア連邦に属する4州（ヤップ州、チューク州、ポンペイ州、コスラエ州）のひとつ。人口は約1万人のこの島で、日本とミクロネシア連邦の国交樹立30周年記念のイベント、2018 Yap Homecoming Summer Festivalがあるということを聞き取材を兼ねて行ってきました。出稼ぎや留学で海外に在住する島民も戻って来るということで、祭りが行われた広場や彼らの部落を訪れるなどして、親子の写真を撮影しました。自然に寄り沿う島民の今までの生活が、海外からの資本で変化する兆しを感じるこの島での貴重な記録写真となりました。



◆ 沖縄県本部町

茨城県在住の写真家、石引まさのり氏による「親子の日」撮影会が、7月15日に沖縄県本部町で今年も実施されました。本部町で「親子の日」が定着する日はきっと間近なはず。期待が大きく膨らみます。

「手作り市の日」と「親子の日」。町のお祭りです！



◆ 愛知県長久手市

愛知県児童総合センター（愛・地球博跡地）は、2007年以来「お父さん応援キャラバン隊「家族の嬉しい顔」写真展を実施。セルフタイマーで撮る「家族の嬉しい顔」の写真撮影会には、今までの最高数の101組が参加。来場した親子は楽しいひとときを過ごしました。



▲ 年行事としてすっかり定着したイベントになりました



▲ 素朴な生活の中からしみ出るおおいを思いやる親子関係に、心の底から癒された日々でした



▲ Pacific Island Timesに掲載されました



イベント情報

今年もアイディア豊富な催しが全国で開催され、さらに多くの人たちと「親子の日」を共有することができました。
今後へのヒントも盛りだくさん！ 次年度に向けてパワーアップしていきたいと思います。

ライブ

◆ surfers / 神奈川県逗子市

『～ surfers で「親子の日」～』は、「親子の日」を応援する仲間たちが集まり「親子の日 2018」のキックオフイベントとして6月10日に実施。写真展示、映画上映、ワークショップ、トークショー、ライブなどで盛り上がった一日でした。



▲ MC に Inter FM の DJ、George Cockle を迎えてのトークショー。ゲストは石川直宏（元プロサッカープレイヤー）、小原壮太郎（NPO 法人スーパーダディ協会／一般社団法人 the Organic）。親子の話題で盛り上がりしました



▲ 「親子の日」応援ミュージシャン CHAN-MIKA ライブ



▲ Rickie-G は「親子の日」のメッセージとして欠かせない人



◀ surfers に集まった「親子の日」サポーター達で、夜まで大賑わい！



映画上映会

◆ LUOMU

群馬県北軽井沢にある LUOMU 森の洋館で、10月26日に映画「OYAKO」の上映会が実施されました。



応援イベント

◆ ビストロパパ

「親子の日」オムライスを作ろう大作戦！は、ビストロパパのネットイベントとして今年も実施。早く「親子の日」の恒例になったらいいですね！



◆ Have Some Fun

ビー玉転がしなどの遊具を使うイベントを実施する Have Some Fun は、各地でイベントを実施。笑顔のあふれる会場は親子で賑わいました。



◆ アクトインディ(株)

アクトインディ株式会社は「親子で温泉へ」という新しいイベントを実施。定着する日が楽しみです。



◆ まごチャンネル

遠くに住む家族の絆を写真で繋ぐ「まごチャンネル」は、気軽に親孝行ができる嬉しいサービスです。



◆ 共同親権

「共同親権運動ネットワーク」でも、両親がともに子育てをできる日を願って「親子の日」を応援！



撮影会

◆ 葉山芸術祭

5月5日のこどもの日に、葉山芸術祭の一環として神奈川県葉山町のビーチで撮影会を実施しました。



◆ ケンコートキナ

恒例のケンコートキナハートフルフォト撮影イベントが、写真家の熊谷正氏と高橋まゆみさん（HEARTFUL PHOTO）の企画で今年も実施されました。



◆ スーパーダディ協会

子育てに参加しようという提案をにかけて立ち上がったスーパーダディ協会（SDA）主催のイベントで撮影会を実施しました。



展覧会

◆ アミュプラザおおい

7月16日～29日、J:COM 大分ケーブルテレコムは、アミュプラザおおいとコラボで、「親子の日」特別写真展を実施。館内はブルース・オズボーンの親子写真で埋め尽くされました。会館内の広場では撮影イベントを実施。大分県の人たちに「親子の日」を知っていただくよい機会となりました。



◆ 葉山マリンフェスタ

森下仁丹株式会社協賛する「葉山マリンフェスタ」が9月2日に実施され、会場となった葉山大浜海岸で撮影会を実施しました。



◆ SHONAN TIME

恒例となった藤沢市のテラスモールでの撮影会は11月23日に実施されました。撮影した写真は雑誌に掲載。テラスモール内にあるインテリア雑貨のお店 ACTUS にも展示していただきました。



◆ 黒門とびうおクラブ×そっか！

「四季を通じて放課後をあそび尽くそう！」と結成された「黒門とびうおクラブ」と、自然と地域の繋がりを取り戻す活動を展開する「そっか！」が協同で実施したイベントに参加。撮影会をしました。



◆ プラザハウスショッピングセンター

沖縄で恒例となった親子写真展。今年はプラザハウスショッピングセンターで展示をしました。会場内に設置した「親子メッセージボード」には、来場した人たちから温かなコメントがたくさん寄せられました。



7月の第4曜日は
親子の日



◆ ラジオ

* 文化放送

6月18日の「くにくまる特派員レポート」に出演。ピングレディーの「ケイちゃん」も一緒でした。



* 湘南ビーチ FM

7月6日、「親子の日」を応援してくださっている晋道はるみさんの番組「DAILY ZUSHI HAYAMA」に出演しました。



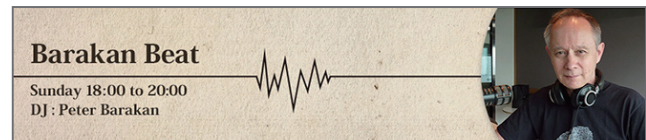
* J-WAVE

サッシャがナビゲートする番組「STEP ONE」に、7月9日に出演しました。



* Inter FM

ピーター・バラカンさんは強力なサポーター！「Barakan Beat」では熱心に「親子の日」のことを話して下さいました。



◆ 雑誌

CAPA

写真雑誌のCAPAで「親子の日」についての紹介をしていただきました。同じくWEBでも紹介していただきました。



◆ TV

琉球朝日放送

首里城公園内の弁財天堂で行なった撮影会の模様は、11月18日の琉球朝日放送で放送され、番組を見た視聴者から温かいメッセージが届きました。



◆ Web News

Yahoo! ニュース

今までの活動や記録をまとめた番組がYahoo! ニュースにアップ。ネットを通じて多くの視聴者に情報発信ができました。



* FLEX 日記



* 清里フォトアートミュージアム



* NETIB-NEWS



* ポップシーン



* ちいき新聞 web



* こどもと暮らし



* Tapir Diary



* イオン



* sportify



* TOYOTA



* ひまわり2525プロジェクト



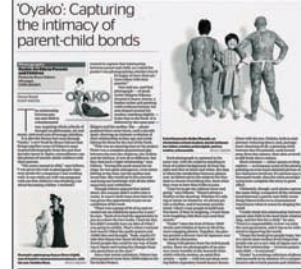
* Japan House Los Angeles



* THE JAPAN TIMES



* METROPOLIS



* PRO PHOTO DAILY



* Sora Books



* PDN PHOTO OF THE DAY



* METROPOLIS





「親子の日」のあゆみ

★これまでの「親子の日」活動報告書はこちらをごらんください→



1982



●初めての親子写真。
仲野茂さんとお母さんの八重さん

- 東京ビッグサイト「Photo Imaging Expo 2009」



7 2009

★毎日新聞で「親子インタビュー」連載スタート！

- 阪急三番街 40 周年記念イベント「親子写真展」



8 2010

- 滋賀県米原市 JR 米原駅のステーションギャラリーで「かけがえのないもの～親子写真展～」



★「親子大使」制度の導入！

- サントリーホールでライブイベントとコラボ（安田祥子 & 由紀さおり）



9 2011

- 第 1 回被災地訪問プロジェクト福島県相馬市の親子を撮影



「TIE☆会いたい」

- 東日本被災地応援プロジェクト「TIE☆会いたい」スタート



- 末広町 3331、新潟放送、YMCA 横浜、JICA、ランドマークタワーで「TIE☆会いたい」の展示会とワークショップ



11 2013



★映画「OYAKO」完成！

- NHK ワールドで、ブルース・オズボーンの活動を世界に向けて発信



★10 周年記念に映画「OYAKO」の製作をスタート！

- 静岡市美術館「親子写真展～未来の私たちへの贈り物～」



- 赤坂サカス内の赤坂ギャラリー「TIE☆会いたい」報告写真展



★「親子の日」10 周年！



10 2012

- 沖縄県那覇市の識名園で琉球補聴器主催の親子撮影会



- 銀座和光で親子写真の展示会



- 韓国で行われた写真館の全国会議「親子の日」セミナー



- 日本外国人特派員協会 (FCC) で映画「OYAKO」のプレス発表



- pechakuchanight tokyo に登壇し「OYAKO」についてスピーチ



- 一般社団法人日本記念日協会から「記念日文化功労賞」を授与



15 2017

- オリンパスギャラリー東京で「ブルース・オズボーン 写真展～親子の日 2017 に出会った親子～」



- Barefoot Studio 撮影風景



14 2016

- 「ふるさとアイデンティティ つながり継承事業」の巡回写真展



- 「親子の日」への高い評価を受け東久通宮文化褒賞を受賞



13 2015

- 映画「OYAKO」がベルリン国際映画祭 (IFB) でベストドキュメンタリー賞を受賞



- シンガポールの School of the Arts Singapore でトークショー



16 2018

- 16 回目の「親子の日」
- 「親子の日スーパーフォトセッション」で 100 組の親子を撮影
- オリンパスギャラリー東京で「ブルース・オズボーン写真展～親子の日 2018 に出会った親子～」
- 第 15 回目「写真コンテスト」、第 13 回目「エッセイコンテスト」、第 12 回「親子大賞」を開催
- 逗子の Surfers で 2018 年「親子の日」キックオフイベント開催
- 「親子の日」を条例化した山口県下松市で、6 回目となる「くだまつ親子の日」イベントが実施される
- 日本写真館協会主催のコンテストで 7 回目となる審査委員を努める
- 日本写真館協会と共働で第 5 回目となる事業「親子の日には写真館へ！」を実施
- DAC 主催の第 6 回「親子の日絆 (KIZUNA) コンクール」の審査委員長
- 第 2 回目「～ HAYAMA TIME ～親子の数だけ親子の物語」を葉山町森戸神社にて
- 「親子の写真展 in 沖縄」を沖縄市プラザハウスショッピングセンターにて
- 第 6 回目となる琉球補聴器主催の親子撮影会を、首里城井財天堂で実施
- アミューズプラザ大分で写真展と撮影会を実施
- 第 2 回目、書店が提案する親子が本でつながる新しい習慣「親子の日」に本を贈ろうフェア」実施
- Yahoo! ニュースに「親子の日」プロジェクトが紹介された
- 公益社団法人新宿未来創造財団主催「親子写真」展示会が新宿文化センターで実施される
- 「葉山マリンフェスタ」で親子撮影会を実施
- 写真集「OYAKO」が Sora Books から出版され Amazon で発売開始
- 「OYAKO」の評価をえて、TIFA (TOKYO INTERNATIONAL FOTO AWARDS) の People - Family 部門で金賞を受賞
- 第 35 回甲信越営業写真家連合会でトークショーと写真撮影パフォーマンスを実施
- 第 1 回目「みらさばワークショップ」を葉山町で実施
- 毎日新聞「親子インタビュー」は 10 年目。65 組の親子の記事が掲載された
- TSUTAYA と毎日新聞のコラボで、連載記事「親子をつなぐこの一冊」開始

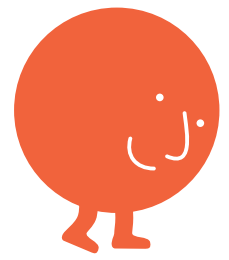
～present to the future～



7 月の第 4 日曜日は
親子の日



7月第4日曜日を「親子の日」に！



5月第2日曜日は、母の日。

6月第3日曜日は、父の日。

7月の第4日曜日は

親子の日



「親子の日」は、あなたと育てる「未来への贈物 *～present to the future～*」です！

「親子の日」とSDGsの出会い

親から子へと引き継がれていく「命の重さ」を真摯に受け止めることは、現代社会が抱える諸問題（少子化、高齢化、貧困、環境破壊、戦争など）を解決するための大きな鍵となるはず！

2003年に誕生した「親子の日」に込められた思いです。そんな「親子の日」の思いと重なるSDGs（Sustainable Development Goals ～持続可能な開発目標～）が、国連サミットで採択されたのが2015年9月。193の国連加盟国によって決められた行動計画の目標に沿って、2030年をゴールに動き出しました。目標の内容は17項目(右ページ参照)に分類され、169の具体的なターゲットで構成。「地球上の誰一人として取り残さない」という誓いのもとに、日本も積極的に取り組んでいます。

バックカスティングとフォアカスティング

現状からどんな改善ができるかを考えて、改善策をつみあげていこうという考え方をフォアカスティング（forecasting）というのに対して、SDGsの17の目標は、未来の姿から逆算して現在の施策を考えるバックカスティング（backcasting）という発想に準じて提示されており、多くの団体や個人がそれぞれの目標に向けた行動をおこしています。

これはまさしく「親子の日」が今まで積み重ねて来た発想であり、SDGsの方策は、私たちの今後の活動方針を考えていく上で大きな自信となりました。



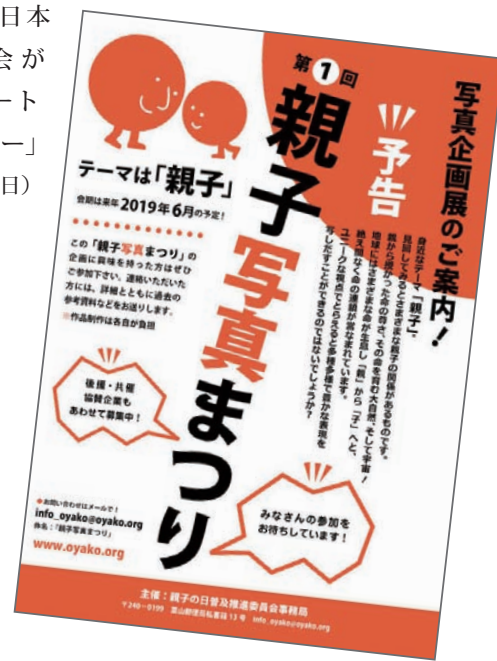
「親子まつり」計画

2019年に17回目を迎える「親子の日」は、SDGsの目標と足並みを揃えつつ、今までの活動に更なる磨きをかけるために、いくつかの新たな計画を実施することにいたしました。

まず、SDGsの第16番目の目標、「持続可能な開発に向けて平和で包摂的で安全な社会を推進」という思いをビジュアル化するために、「親子まつり」という新しい企画を実施します。

「親子まつり」の第1回目として、写真を中心に「親子写真まつり」という事業を計画いたします。具体的には、多くの写真家に参加していただき、さまざまな角度からとらえた親子写真を通じて「親子」という言語に込められた思いがビジュアルとして伝わり、「親子」の視点を広げ、深めることができるような展示会の実施です。

展示会場は、日本外国特派員協会（7月6日～8月2日）と、一般社団法人日本写真文化協会が運営する「ポートレートギャラリー」（7月25日～31日）です。



◆協同組合日本写真館協会と公益社団法人日本写真家協会に配布した「親子写真まつり」の予告チラシ

「月間親子の日賞」の計画

もう一つは、「月間親子の日賞」の計画。

「親子の日」が共感する行動をおこしている

人や団体の活動を、「月間親子の日賞」として選ばせていただき、その活動の応援をしようというものです。

これは、SDGsの第17番目の目標、「持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化」という目標に対して、微力ではありますが、私たちにできることのひとつとして計画いたしました。



親から子へとつながる命が安心して輝ける社会

命の健やかな成長を育む仕組みとして形成された、家族、コミュニティ、さらには企業や国家などの組織。その仕組みが綻び始め、組織を支えるために誕生した、政治、経済、科学等の素晴らしい文化や文明の利器が、私たちの命を脅かす武器になりうる現実。

親から子へとつながる命が安心して輝ける社会のために、今、私たちに求められているのは、原点に立ち返って未来を計画する真摯な心ではないでしょうか。

ゴールの先に！

2020年の東京オリンピックの年、2回目の「親子まつり」までにはさらに充実したイベントになることを目指し、東日本大震災から10年の月日が経過する2021年は、2011年を振り返りながら今後の目標を確認する活動を実施。2022年に迎える20回目の「親子の日」には、節目にふさわしい活動を考えたいと思います。

2025年は大阪万博があり、2030年はSDGs（Sustainable Development Goals ～持続可能な開発目標～）がゴールを迎えます。

本番はその先です。

「親子」は、例えるならば建物全てを支える土台のようなもの。



山積する諸問題を検証しつつ、建物をしっかり支えられる土台づくりのために「親子の日」に込めた願いの軸を崩さずに、解決に向けて努力を積み重ねたいと思います。

井上佳子／親子の日普及推進委員会代表



持続可能な17の開発目標



◆1 極度の貧困を含め、あらゆる形態の貧困に終止符を打つことを求めている ◆2 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する
◆3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する ◆4 すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する ◆5 ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る ◆6 すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する ◆7 すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保 ◆8 すべての人々のための包摂的でかつ持続可能な経済成長と、生産的な完全雇用で働きがいのある仕事（ディーセント・ワーク）を推進する ◆9 インフラの拡大レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、インフラの拡大を図る ◆10 国内および国家間の不平等を是正する ◆11 安全都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にするねらいは、コミュニティの絆と個人の安全を強化 ◆12 持続可能な消費と生産のパターンを確保 ◆13 気候変動とその影響に立ち向かうため、環境に於ける緊急対策を取る ◆14 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する ◆15 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る ◆16 持続可能な開発に向けて平和で包摂的で安全な社会を推進。すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
◆17 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化

